

小麦、過去最高20億円 農産物、前年度上回る J Aさらべつ

2020年5月21日

【更別】J Aさらべつ（若園則明組合長、正組合員296人）の第72回通常総会が20日、同J Aで開かれ、2019年度の農畜産物販売高が前年度比12億9,100万円（9.7%）増の145億4,200万円です。史上最高額を更新したことが報告された。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面議決を中心に開催した。

農産物はおおむね天候に恵まれ、14%増の107億3,000万円、畜産物は0.8%減の38億1,200万円。作物別では小麦が20億1,100万円です。過去最高で、ジャガイモは29億4,900万円、豆類は28億2,100万円、生乳は26億7,000万円。経常利益は4億1,800万円を計上。

任期途中で退任した影山敏司常務理事の後任に中井勝則常務理事を選任した。若園組合長は「TPP11や日欧EPA、米国とのTAG発効の影響が定まらない中、新型コロナの影響拡大で経済のダメージが収まらない状況。職員、組合員が一丸となって組合員の収入向上へ努力していく」とあいさつした。

農畜産販売 最高129億円 小麦、豆が好調 J A豊頃町

2020年5月22日

【豊頃】J A豊頃町（山口良一組合長、組合員255人）の通常総会が20日、同J Aで開かれた。2019年度の農畜産物販売高は、経営所得安定対策交付金を加え、18年度比4.5%増の129億7,566万円です。過去最高だった17年度（129億6,722万円）を上回る結果となり、9年連続で100億円を突破した。

昨年度の農業生産は、6月中旬から7月下旬までの低温、8月上旬の猛暑による影響が懸念されたが、最終的には小麦は前年度比17.7%増の11億7,561万円、豆類は同36.3%増の16億8,846万円、バレイショは同0.7%増の12億6,987万円と好調だった。同10.9%減で6億8,858万円にとどまったビートをカバーし、畑作部門合計では同7%増となった（いずれも戸別所得補償含む）。

生乳は出荷量は同3.5%増で、販売高は乳価の値上がりなどにより5.3%増の64億4,938万円（補給金含む）だった。一方、個体販売はやや下落の傾向にあり、取扱頭

数の減少の影響もあって6%減の15億3,452万円だったが、畜産全体では3%増となった。

当期末処分剰余金は1億9,950万円となり、0.5%の出資配当を予定している。総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面議決で規模を縮小して実施し、書面での議決権行使を含め232人が出席。

山口組合長は「本年も国をはじめ行政に対し、基盤整備事業の継続強化の要請運動を展開するとともに、耕畜連携による土づくりなどを推進していく」とあいさつした。

過去最高の193億円 農畜産物ともに前年上回る J A新得町

2020年5月24日

【新得】J A新得町（太田眞弘組合長、150人）の第90回通常総会が22日、同J Aで開かれた。2019年度の農畜産物販売取扱高は193億2,500万円（前年度比1.1%増）で過去最高を更新した。

主力の畜産物が179億3,500万円（0.9%増）。生乳生産では良質な粗飼料が与えられたことや増頭などにより、出荷量が過去最高の4万9,702トン（3.2%増）となった。素（もと）牛も販売頭数、販売高ともに前年度を上回った。

農産物は13億9,000万円（3.9%増）。記録的な少雪や春先の干ばつなど厳しい気象条件はあったが、ソバ以外はおおむね豊作だった。当期末処分利益剰余金は1億

4,628万円を計上した。

総会は書面議決を中心に開催。太田組合長は「新型コロナウイルスの影響を見極め、しっかり対応していく」と述べた。今年度は、24年度まで5カ年の第8次農業振興計画に基づき、深刻化する労働力不足への対応強化などを図る。生産支援体制の見直しを進め、酪農ヘルパー業務やコントラクター事業の充実などを目指す。